

実学教育に取り組み、社会に貢献する人材を育てるだけでなく、研究の成果を産業界や地域に還元する取り組みとして、産学連携・地域連携に力を注いでいます。

研究成果の社会還元を目指し産学連携を進めています！

産学連携の目的と総合技術研究所の役割

ものづくりの地、愛知県にある工科大として産学連携への取り組みは重要だと思っています。産学連携の主な目的は、「研究成果で社会へ貢献すること」「社会で必要とされるものを教員が知ること」「教育的効果」の3つです。産学連携を進めていくことで結果的に大学の社会的意義も高められると考えています。

総合技術研究所では、産学連携の取りまとめや支援などに取り組んでおり、共同研究や受託研究をはじめ、企業等からのニーズに応えられるようなメニューを用意しています。

連携を進めるための様々な支援

産学連携を進める上では、ニーズとシーズのズレをなくすマッチングが重要になります。企業等では極秘に進めたい案件もあります。そのため、コーディネーターが入って企業等との信頼関係を深め、円滑に進むよう支援をしています。現在、総合技術研究所には4名のコーディネーターがいますが、名古屋産業科学研究所など学外のコーディネーターの協力も得て幅広いネットワークで対応できるようにしています。

研究シーズを発信する取り組みとして、テクノフェアを2年に1回開催しています。企業等の方を対象にした展示や講演会ですが、学内の先生方にも聞いていただき、情報交換の場にさせていただけると考えています。他には特定分野におけるシーズ発表と交流を行うテクノサロンを年2回開催しています。イベント以外にも「技術シーズ集」という冊子を発行し、同窓会や愛名会はもとより、学内外のイベントの訪問者に配布するなど、多くの方に研究を知っていただき、産学連携のきっかけとなるよう努めています。

産学連携には社会のニーズを知ることも重要で、自治体や金融機関等をはじめとした外部との情報交換を積極的に

行っています。昨年度は大垣共立銀行と本学が主催する形で、テクノフェアと同日に学内ツアーを行いました。銀行の顧客である企業の方々に10のテーマについて研究活動や設備を見学していただきました。各担当教員が説明をし、その場で質問に応えるという形をとりました。

また、総合技術研究所では、企業からの技術相談にも応じています。相談内容に応じて教員を紹介して対応しています。これがきっかけで共同研究へ発展することもあります。

費用面での本学独自の取り組み

産学連携を進める上での課題となるのが費用です。共同研究や受託研究をはじめ、産学連携メニューは基本的に企業等の側に費用負担があるため、なかなか産学連携に発展しないケースもあります。そこで、本学では「プロジェクト共同研究」という制度を用意し、研究費用を支給しています。共同研究・受託研究などに発展することを目指し、企業と本学がともに費用負担をするプロジェクト共同研究(A)と、プロジェクト共同研究(A)や共同研究の準備研究の位置づけで本学のみが費用負担するプロジェクト共同研究(B)があります。昨年から進行中の案件に加え今年度は14件の新規案件が加わり、現在21件の研究が進行しています。研究の成果はプロジェクト共同研究シンポジウムで発表します。今年度も6月にシンポジウムを開催しました。

また、先生方が外部の研究プロジェクトへ応募する支援も行っています。今年度は知の拠点あいちの重点研究プロジェクトに本学の提案が2件採択されました。

このような取り組みは、研究や社会貢献における効果だけでなく、教育的にも効果があると思います。学生達が社会で役立つ研究への取り組み方を学べる場になるからです。社会の問題解決のためには他分野との協働が必要になることを知る機会にもなります。

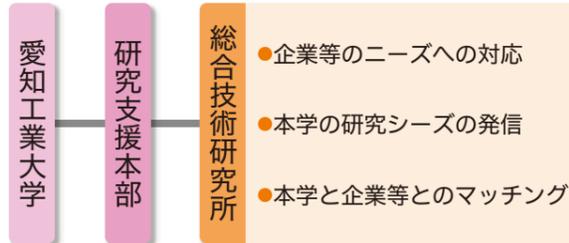
産学連携は本学の社会貢献だけでなく、教育や研究の発展にとって大変重要な役割をもっており、ぜひ発展させていきたいと思っています。瑞若会の皆様も、本学のシーズをご覧いただくとともに、お気軽にニーズをもってご相談いただけますようお願いいたします。



総合技術研究所長 鈴置 保雄



1992年に設立された総合技術研究所



産学連携メニュー

【共同研究】

企業等からの提案を共同で研究します。経費は、原則として負担をお願いしています。

【受託研究】

企業などから委託されて研究を実施します。

【共同研究員・受託研究員】

企業等の技術者・研究者などを受け入れ、教員の指導のもとに研究に従事していただきます。

【受託試験】

企業等の依頼により、大学の設備で材料や製品などの分析・試験などを行います。

【奨学寄附】

教育・研究活動の支援のため、企業等や個人からお寄せいただく寄付金です。

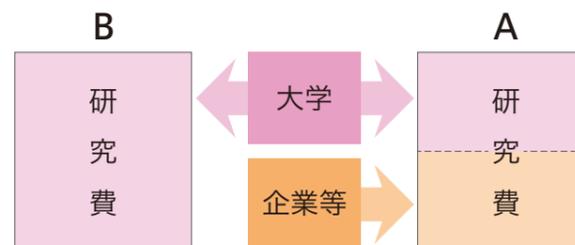
【技術相談】

企業等からの研究開発における問題解決のため、教員が技術相談に応じます。

プロジェクト共同研究

プロジェクト共同研究(A)では、企業等から提供された研究経費(直接経費)と原則同額を担当教員に支給します。

プロジェクト共同研究(B)では、企業等からの研究経費の有無に関わらず、研究経費を支給します。



お問い合わせ先

何でもお気軽にお問い合わせください！

●総合技術研究所 TEL 0565-48-8121 (代表)
E-mail: so-ken@aitech.ac.jp
URL: <https://www.ait.ac.jp/facility/research/>

テクノフェア

技術シーズの発信の場として開催。技術シーズのブース展示や学内研究を発表する講演会等を行っています。



テクノサロン

テーマに沿った研究内容についての講演会をし、終了後には来場者と研究者が交流できる場を設けています。



技術シーズ集

160件余りの研究内容を1ページで簡潔に掲載しており、産学連携のシーズ(種)を紹介する資料です。



知の拠点あいち重点研究プロジェクト Ⅲ期

2019年度に採択された本学の提案

1 ヒトに優しい遠隔運転要素技術の開発とシステム化

近未来自動車技術開発プロジェクト部門のセンシング(車載カメラ・遠隔モニタリング)分野で採択されました。

2 直流スマートファクトリー実現に向けた変換装置の開発

先進的AI・IoT・ビッグデータ活用技術開発プロジェクト部門のエネルギー(水素・スマートファクトリー)分野で採択されました。